

併催 吉澤コレクションの陶芸

生誕150年 板谷波山

板谷波山(1872-1963)は茨城県下館(現筑西市)に生まれ、放菴(東京での居住地が同じ田端)や寛方と同時代に活躍した陶芸家です。本展会期中に生誕150年を迎えることを記念し、当館の吉澤コレクションから波山の代名詞でもある彩磁作品を中心に、吉澤家とゆかりの深い作品も交えた特集展示を行います。本展とあわせてご覧いただき、明治・大正・昭和を生きた画家・陶芸家のそれぞれの足跡や作品世界に共感していただければ幸いです。



《葆光彩磁牡丹文様花瓶》大正中～後期 当館蔵



《青磁牡丹文水差》昭和37年(1962) 当館寄託



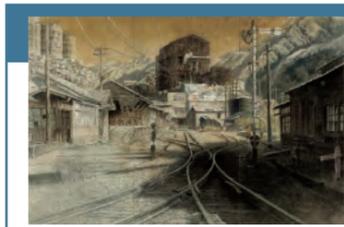
《淡黄磁牡丹文花瓶》昭和36年(1961) 当館寄託



《彩磁呉州絵香炉》昭和10年代 当館蔵



《彩磁草花文水差》昭和32年(1957) 当館寄託



棚町宜弘《過日》平成29年(2017) 作家蔵

栃木県立美術館で開催中の展覧会

日本画のゆくえー継承と断絶・模倣と創造

会期：2022年1月29日(土)～3月21日(月・祝)

栃木県立美術館 栃木県宇都宮市桜4-2-7

TEL:028-621-3566 <http://www.art.pref.tochigi.lg.jp/>

次回展覧会のお知らせ

特別企画展 王欽古

一京から来て、佐野に住んだ南画家ー

会期：2022年3月19日(土)～5月8日(日)

佐野市立吉澤記念美術館

王欽古《棧道高秋図》当館寄託

ごいっしょに～佐野の文化散歩～

※休館日などは各館にお問い合わせください

佐野市葛生伝承館 0283-84-3311 (入館無料)

「雛人形展」
2022/2/4(金)～4/6(水)

佐野市葛生化石館 0283-86-3332 (入館無料)

「日本の石灰岩と化石展～旅する石灰岩の物語～」
2021/7/17(土)～2022/1/30(日)

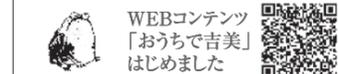
「第16回新着標本展」
2022/2/11(金・祝)～5/15(日)

佐野市郷土博物館 0283-22-5111 (入館無料)

「くらしのうつりかわり～古い道具と昔のくらし～」
2022/1/4(火)～2/23(祝・水)

佐野市人間国宝田村耕一陶芸館

0283-22-0311 (入館無料)
「田村耕一の陶板と名品展」
2021/11/3(水・祝)～2022/2/27(日)



WEBコンテンツ
「おうちで吉美」
はじまりました

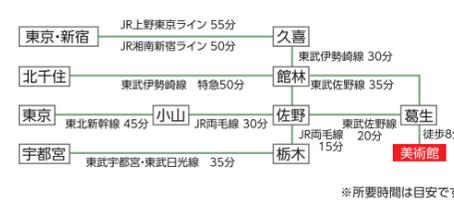
ご来館の
前に!

新型コロナウイルス感染症の感染予防・拡散防止のため、臨時休館・期日等が変更になる場合がございます。最新情報は、当館ホームページまたはお電話にてご確認ください。

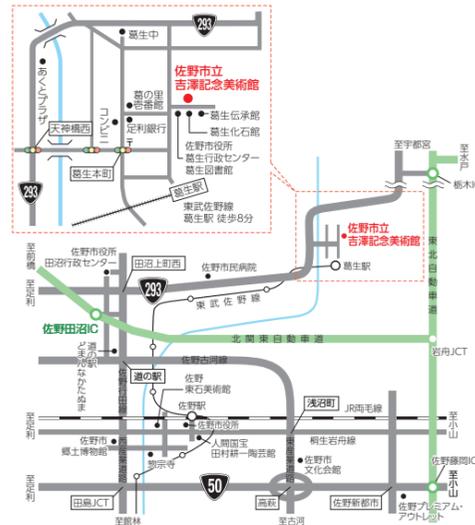
美術館へのアクセス

車 北関東自動車道佐野田沼ICから15分
→国道293号線を利用
→葛生行政センター北側
※宇都宮中心部から60分

電車 東武佐野線 葛生駅徒歩8分



オムツ交換台有
ベビーカー入場OK



アートリンクとちぎ2021・
小杉放菴生誕140年



放菴と寛方

Hōan and Kanpō

2022.1/22(土)～3/6(日)

開館時間／午前9時30分～午後5時
休館日／毎週月曜日、祝日の翌日(2月24日)
観覧料／一般520円(470円) ()内は20名以上の団体
※大学生以下・障害者手帳をお持ちの方とその介添者1名は観覧無料(要 学生証・障害者手帳)
※団体以外は予約不要。現金のみ。入場制限を行う場合がございます
主催／佐野市立吉澤記念美術館、栃木県立美術館



放菴と寛方

2022.1/22(土) - 3/6(日)

栃木ゆかりの画家、小杉放菴(1881-1964)と荒井寛方(1878-1945)。本展は放菴の生誕140年を記念し開催する栃木県立美術館の所蔵品展です。同時代に活躍したふたりの同郷画家の創作の変遷を、放菴は初期の洋画から晩年の日本画まで、寛方は生涯を通じて極めた仏画を中心に、その芸術性と作品の魅力を紹介いたします。ともに県北出身の画家でもある放菴と寛方の作品を県南の佐野市であわせてご覧いただけるまたとない機会となります。



放菴 Hōan

放菴の軌跡

小杉放菴は日光市に生まれ、はじめ五百城文哉のもとで洋画を学びました。上京して画塾・不同舎に入り、洋画家として文展で活躍していましたが、ヨーロッパへの遊学を機に日本画へ傾倒します。帰国後は再興日本美術院展の洋画部を牽引。後年には小堀鞆音(佐野市出身)や荒井寛方らと栃木県出身の日本画家による「華巖社」を組織しています。晩年は「放菴紙」と呼ばれる特注の麻紙に枯墨と淡彩で描いた軽妙で温かな作品を完成させ、独自の画境を築きました。



1



2



3



4



5



6

1. 《婦人立像》明治44年(1911)頃 2. 《アルハンブラの丘》大正2年(1913) 3. 《長夏深柳》大正8年(1919)頃 4. 《三笑》昭和9年(1934) 5. 表紙上半部分図。《金太郎遊行》昭和19年(1944) 6. 《立石寺》昭和25年(1950)頃 上半部分図。《童話・花咲爺》昭和38年(1963) すべて栃木県立美術館蔵

寛方 Kanpō

寛方の仏画

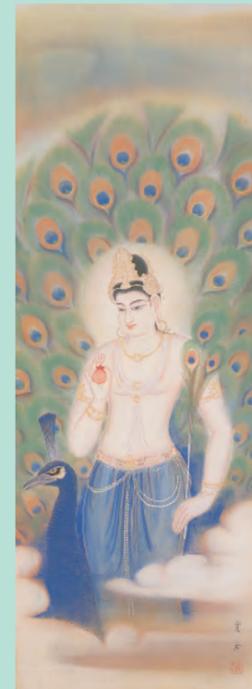
荒井寛方はさくら市(旧氏家町)に生まれ、上京して水野年方に入門しました。文展をはじめ、放菴が創設にかかわった再興日本美術院展にも参加しています。美術雑誌『國華』に掲載する古画の模写を経て仏画を志し、インド訪問を機にインドの影響を強く受けた色鮮やかで魅惑的な仏画を制作します。晩年は法隆寺金堂壁画の修復模写に従事。インド画風を昇華し、薄墨と独特な線描による優美で崇高な仏画を描いて「仏画の寛方」と評される自らの画風を確立しました。



1



2



3



4



5

1・表紙下部分図。《阿彌陀》大正2年(1913) 2. 《アジャンター壁面模写(第一洞窟右側)》大正7年(1918)頃 3. 《孔雀明王》大正後期(1920年代) 4. 《蓮葉観音》昭和15年(1940) 5. 《観音図》昭和19年(1944)頃 下部分図。《摩利支天》大正11年(1922) すべて栃木県立美術館蔵

会期中の催し物

1 栃木県立美術館学芸員による ギャラリートーク

講師：志田康宏氏(栃木県立美術館学芸員)
日時：2月20日(日) 午後2時～(40分程度)
場所：美術館展示室(エントランス集合)

※要当日観覧券。予約不要(人数制限を行う場合がございます)

2 当館学芸員と一緒に 作品鑑賞会

日時：1月29日(土)、2月6日(日) 各日午後2時～(40分程度)
場所：美術館展示室(エントランス集合)

※要当日観覧券。予約不要(人数制限を行う場合がございます)

※中止・変更になる場合がございます。詳細は当館ホームページをご確認ください。

